

小学生及び中学生を対象としたILAS 指標の策定

- 現在、高等学校1年生を対象に実施しているILASテストについて、将来的に小学生及び中学生にも実施対象を拡大するため、高校生向けに整理した指標(青少年に必要なリスク対応能力)及びそれに紐づく設問等をベースに、小中学生向けの指標を策定した。
- 策定にあたり、以下5名の有識者に対してヒアリングを実施し、
 - ①スマホの普及率やインターネットの利用内容の差異等を踏まえ、小中学生向けのILAS指標(リスク分類、リスクの具体例、対応能力)と高校生向けのILAS指標の間に差異を設けるか
 - ②差異を設ける場合、対象をどの程度細分化して指標を策定するか
(小学生向けと中高校生向けで分ける、小学生を小学校低学年と高学年に分ける等)等の論点について検討した。

氏名(敬称略)	所属
赤堀 侃司	・(一社)ICT CONNECT 21 会長 ・東京工業大学名誉教授
上沼 紫野	・LM虎ノ門南法律事務所弁護士 ・(一社)安心ネットづくり促進協議会理事
齋藤 長行	・仙台大学 体育学部 スポーツ情報マスメディア学科 教授 ・お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーションセンター 客員教授 ・総務省 情報通信政策研究所 特別研究員
竹内 和雄	・兵庫県立大学環境人間学部教授
山脇 岳志	・スマートニュース メディア研究所・所長 ・帝京大学経済学部客員教授

有識者ヒアリング結果

- 有識者からは主に以下のような意見を得た。

高校生向けILASテストとの差異について

- 既存のILAS指標やリスクリテラシー定義(大～小項目)については検証を行い、2021年にデジタル利用環境の変化を受けて指標や定義の見直しを行ったことから、**基準となる指標や定義等は既存のままとし、設問における問題文や選択肢を各学齢に適したものに改修すればよい**のではないかと提案
- 高校生向けILASとの一貫性を保ちつつ、各学齢に適したレベルのテストを開発するために、テストは2～3パターンのレイヤーに分類することが望ましいことを提案
- デジタルデバイスの活用傾向等がほとんど変わらず、教科担任制となっている**中学生と高校生は**、価値観や思考方法にもあまり差異がみられないことから、**同一指標で異論ない。一方で、小学生と中・高校生には差異がある**と考える
- 中学生と高校生は、デジタルデバイスの活用傾向に大きな差が見られないことと、ILASのテストアイテムに対する理解度に大きな差はないと推測されることから、**中学生に対しても高校生向けのILASテストを適用することは可能**と考えられる。一方で、**小学生と中・高校生には、デバイスの活用状況、設問に対する読解力に差がある**と言える

小中学生向けILASテスト内の学齢間の差異について

- 学年の分け方
 - 小学校低学年はSNS等において自ら投稿はしないが、「受動的に見る」行為は行う。小学校3年生頃から自ら投稿する行為もみられる
 - 全国10万人の小学生～高校生を対象にした調査では、小学校1・2年生と小学校3年生～6年生で区切りをつけて設問を設計していることから、**小学校3年生か4年生を境として、低学年版と高学年版のILASテストを開発することも一案**
 - 小学生は成長が著しいため、2年ごとに分類することも一案**
 - GIGAスクールにおける学年ごとの**デジタルデバイス等の活用を基準に、学年を区切ることを検討してもよい**かもしれない
 - アメリカやEUにて定められている**SNSの利用規約において13歳以上が対象年齢となっていることから、小学生と中学生は区切るとよい**
 - ピアジェの発達理論を踏まえると、小学校低学年は具体的操作の時期に該当し、小学校4年生以降の高学年は形式的操作の時期に該当することから、**小学校低学年(1～3年生)と小学校高学年(4～6年生)に分類することが適切**と思慮
- 対応能力
 - 小学校高学年の対応能力において、「1a.違法情報」は犯罪に関わるため、「適切に対処できる」まで基準として求めてはどうか
 - ピアジェの発達理論を踏まえると、**小学校低学年(1～3年生)は、親や先生等の周囲の支援ありきで行動するが、小学校高学年(4～6年生)からは親の助けなしに行動していく傾向が強まる**
 - 能力定義について、「認識する」に留まるのみならず、認識してどうする、まで定義できるとよいのでは
 - 偽情報や誤情報には、故意かどうかや、その悪質性の度合いも含めて、いくつかの種類があることを知っておくべきだと考える

その他

- ILAS調査の設計
 - 現行調査の設問数(49問+アンケート20問程度)は1時間弱のテスト時間を要するため、スケジュールが調整できない学校が一定数いるものと思慮。小学生年代におけるILASテストの実運用性を高めるために、ILAS指標の分析に活用する詳細版(20問程度)のテストと、普及・啓発を目的とした簡略版(10問程度)のテストの2種類を策定してみることも一案
 - ILAS調査における文言が難しいといった声もある。より多くの学生に受けてもらうには、**設問数の削減と言葉の平易化が必要**と思慮
 - 小学生向けのテスト問題は集中力が持たないと考えるため、**問題数は一定削減した方がよい**
- 前提となる考え方
 - あれもだめ、これもだめ、とリスクのリストを作ると、キリがなくなる時代になっている。むしろ、リスクとして想定できる事態が起きたときに、**具体的にどう対処するかを考えさせたほうが生産的**なのではないか
 - 失敗を許容し、失敗した場合においてどう対処すべきかをメッセージとして伝えていくことが望ましい

小学生及び中学生を対象としたILAS 指標

- 有識者からの意見等を踏まえ、小学生を低学年（～3年生）と高学年（4年生～）に分類し、一部指標を高校生向けから変更して、小学生及び中学生を対象としたILAS 指標を以下のとおり策定した。

【凡例】 ■ :高校生向けからの変更箇所 ■ :高校生向けから変更のない箇所

(参考)高校生向け			小学生向け						中学生向け		
リスク中分類	リスクの具体例	対応能力	低学年(～3年生)			高学年(4年生～)			リスク中分類	リスクの具体例	対応能力
			リスク中分類	リスクの具体例	対応能力	リスク中分類	リスクの具体例	対応能力			
1 違法有害情報リスク			1 違法有害情報リスク						高校生向け指標と同じ		
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、出会い系サイト等	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。	1a. 違法情報リスク	他の人/物の権利、恋人を募集するサイト等	違法コンテンツの問題を認識し、周りのサポートを受けながら、適切に対処できる。	1a. 違法情報リスク	他の人/物の権利(著作権・肖像権)、出会い系サイト等	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。			
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、炎上、閲覧制限等	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。	1b. 有害情報リスク	書いてはいけない書き込み、見てはいけないサイトを見る等	有害コンテンツの問題を認識し、周りのサポートを受けながら、適切に対処できる。	1b. 有害情報リスク	書いてはいけない投稿、見てはいけないサイトの閲覧等	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。			
2 不適正利用リスク			2 不適正利用リスク								
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。	2a. 不適切接触リスク	インターネット上のいじめ、人の悪口等	周りのサポートを受けながら、情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。	2a. 不適切接触リスク	迷惑メール、SNSいじめ等	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。			
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、ネット上の売買等	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。	2b. 不適正取引リスク	インターネット上の買い物等	インターネット上の買い物の問題を認識し、周りのサポートを受けながら、適切に対処できる。	2b. 不適正取引リスク	インターネット上の買い物等	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。			
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。	2c. 不適切利用リスク	長時間利用、歩きスマホ、マナー等	周りのサポートを受けながら、利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。	2c. 不適切利用リスク	長時間利用、歩きスマホ、マナー等	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。			
3 プライバシー・セキュリティリスク			3 プライバシー・セキュリティリスク								
3a. プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	プライバシー保護を図り利用できる。	3a. プライバシーリスク	プライバシー、人に教えるべきでない情報を教える等	プライバシーの問題を認識し、周りのサポートを受けながら、適切に対処できる。	3a. プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	プライバシー保護を図り利用できる。			
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、ウイルス対策等	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。	3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、ウイルス対策等	周りのサポートを受けながら、適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。	3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、ウイルス対策等	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。			